

第 9 次札幌市環境保全協議会 第 2 回会議 議事概要

【開催日時】

平成 25 年 8 月 22 日（木）14：00～16：00

【開催場所】

札幌市役所本庁舎 12 階 2・3 号会議室

【委員の出欠状況】（委員 18 名中 14 名出席）

	氏名	所属団体等
出席	あおき なおと 委員 青木 直人	日本チェーンストア協会 北海道支部
	あおき よしのり 委員 青木 善範	公募市民
	えんだ まさひろ 委員 遠田 雅宏	一般社団法人 北海道建築士事務所協会 札幌支部
	おおた さちお 委員 太田 幸雄	北海道大学 名誉教授
	おおの よしたか 委員 大野 芳高	イオン北海道 株式会社
	おだ かつよし 委員 小田 勝義	公募市民
	こばやし みつな 委員 小林 三樹	藤女子大学 研究支援研究員
	たけだ ひでかず 委員 武田 秀一	一般社団法人 札幌地区トラック協会
	ちば ひでき 委員 千葉 英樹	NPO法人 北海道省エネまちづくり協会
	てるい こういち 委員 照井 幸一	一般社団法人 札幌ハイヤー協会
	とえだ こ 委員 土江田 つや子	公募市民
	ながおか ただまさ 委員 長岡 忠正	一般社団法人 北海道太陽光発電普及協会
	みやもと なお 委員 宮本 尚	認定NPO法人 北海道市民環境ネットワーク
	みやもり よしこ 委員 宮森 芳子	北海道地球温暖化防止活動推進員
欠席	いちむら かずし 委員 市村 一志	NPO法人 ひまわりの種の会
	おおくま けいすけ 委員 大熊 啓介	NPO法人 ezorock
	たかはた のぶお 委員 高畠 宣雄	公募市民
	むらかみ しんご 委員 村上 伸吾	生活協同組合コープさっぽろ

【配付資料】

- ・ 次 第
- ・ 座席表・委員名簿
- ・ 資料 1：札幌市環境保全協議会と札幌市環境審議会の関係
- ・ 資料 2：札幌市の温室効果ガス排出量の推移
- ・ 資料 3：既存の温暖化対策に関する現状と課題
- ・ 参 考：平成 24 年度の来札観光客数について

【会議内容】

1 会議開会

委員 18 名中 14 名が出席しており、会議が成立していることを確認した。

2 議題

(1) 第 9 次札幌市環境審議会委員の推薦

第 9 次札幌市環境保全協議会から第 9 次札幌市環境審議会への委員の推薦について、以下の 2 名を推薦することとなった。

- ・ 一般社団法人 北海道太陽光発電普及協会 長岡 忠正 委員
- ・ 認定 N P O 法人 北海道市民環境ネットワーク 宮本 尚 委員

3 札幌市の温室効果ガス排出量の推移

- ・ 第 1 回会議における委員からの「民生家庭、民生業務、運輸の 3 部門における温室効果ガス排出量の推移」に関する質問に対して、資料 2 を用いて事務局から説明した。
- ・ 今後、観光客を対象とした温暖化対策の検討を進めるにあたっての参考資料として、平成 24 年度の来札観光客数についても説明した。

《委員からの質問・意見》

○太田副会長 2011 年度の温室効果ガスが増加した要因としては、泊原発の停止による火力発電所の稼働の増加ということだが、増加分の温室効果ガス排出量は、

札幌に供給している電気量の割合で按分しているのか。

○事務局 原発や火発の稼働状況から、単位電力量当たりどのくらいCO₂が出ているのかという全道共通の排出係数がある。札幌市内の使用電力量にその係数をかけることによって、CO₂量を算出している。

○小林会長 温室効果ガス排出量には、自家発電を持っているところの分は、含まれていない。

北電が発電する最大電力約450万kWのうち、札幌では約200万kWを使用している。そのうち、札幌市内の水力発電所の常時発電量は、25,000kWくらいしかない。

今回報告があったのは、札幌市民が使うセメントや鉄を作る工場、飛行機、船の分はカウントされていないので、実質的にはもっと排出されているだろう。

○武田委員 運輸部門の温室効果ガスについて、2000年前後からトラックの輸送トン数が減少して、トラックの台数も減少している状況である。運輸部門の温室効果ガス排出量が減少しているのは、次世代自動車や低燃費車の登録が増えたからというわけではないのではないか。

○事務局 運輸部門の温室効果ガスは、登録台数を基調に、営業車などの区分ごとに平均的な年間走行距離数を掛け合わせ、算出している。

札幌市内の登録台数は98万台程度でほぼ横ばいとなっていることと、不況により年間走行距離が減少しているという状況もあることから、運輸部門の温室効果ガス排出量の減少は、次世代自動車や低燃費車の導入のみが要因ではないというのは、ご指摘のとおりである。

○宮本委員 札幌市への観光客が飛行機でやってくる分の温室効果ガスの排出は、どこに計上されるのか。

○事務局 運輸部門には、JRや丘珠空港で使用される燃料消費量は含まれているので、丘珠に来る観光客の分は考慮されている。ただ、札幌に来る観光客のほとんどは、千歳経由で来ているので、その分は札幌市域分には含まれていない。

○小林会長 原発が2、3年動かないとすれば、1 kWh を発電するのに排出されるCO₂量原単位は2倍くらいになってしまうので、生活を相当変えなければ札幌市内のCO₂総排出量は2倍くらいになるという深刻な状況である。

4 議題

(2) 既存の温暖化対策の現状と課題を踏まえた取組の連携・組合せの検討

- ・ 各委員が取り組まれている温暖化対策について、資料3を用いて各委員から説明していただいた。

《委員からの質問・意見》

ア 取組の連携・組合せ

○宮森委員 今年の9月に電気料金の値上げが控えているが、このまま暑ければ、電力の消費量はどうか。

また、2012年における電力のCO₂換算係数は、2011年と比べると約1.4倍になっているので、黙っていてもCO₂の排出量は増えてしまうという状況である。

節電をやっている方は継続して取り組んでいると思うが、昨年やらなかった方、昨年やって色々な課題を見つけた方、さらにステップアップしたい方など色々いる中で、小田委員の町内会の取組が非常に有効だと思うので、期待したいと思った。

2011年1月に、町内会の女性部の方たちに話しをしたことがあり、とても熱心に聞いてくれて、町内会への広がりがあったと思う。ただ、話しに行っても、その後どうしたかということをおたちは分からないので、その点も含めて、町内会ぐるみで見える化をしていくという話しについて、もう少し具体的な構想を聞きたい。

千葉委員も、長岡委員も、私も省エネルギーセンターの無料講師で、自治体や町内会も含めて利用できるもので、こういうものを利用することを勧めてはどうか。

○小田委員 まず、私がモニターをやっている消費電力量の見える化機器やこれから受ける予定の省エネ診断の結果を、町内会の三役に話して実際にやっていただ

きたいと願います。

町内会の役員の方からやってもらって、女性部や環境部もあるので、いいもの
だとなれば、少しずつ町内会で希望者を募って、取組をやってもらう。千葉委員
や宮森委員が資格を持っているので、ノウハウを教えていただく。そして、全体
的な報告会をして、情報を共有する。

そういう希望はあるが、個人では動けないので、協議会の方や札幌市にアドバ
イスや支援をいただければ、何とかやっていけるのではないかと考えている。

○小林会長 千葉委員、長岡委員、宮森委員は、省エネ診断員の資格を持って活動
されている。講師無料派遣というのは、バス代などは誰が負担するのか。

○宮森委員 交通費は全て省エネルギーセンターで負担する。

○小林会長 依頼する側は、何も負担しないで済むということですが、町内会から
要請があった場合、千葉委員、長岡委員、宮森委員は協力してもらえるか。

○千葉委員、長岡委員、宮森委員 問題ない。

○宮森委員 イオンから「チアーズクラブ」の話があったが、今年のテーマはエ
ネルギーということなので、ぜひ子供たちにも話を聞いてもらいたい。

○小林会長 チェーンストア協会の青木委員に聞きたいのだが、他のスーパーマー
ケットでも、イオンの大野委員から話しのあったのと類似の取り組みをやっ
ているのか。

○青木(直)委員 各社、環境であったり、子供や年配の方、地域の方に向けたり、
色々な軸で活動をされている。

○小林会長 店舗の照明や商品管理のための冷蔵庫の稼働など、流通業界もたくさ
んエネルギーを使っているので、「わが社はこういう努力をしています、お客さ
んもそれぞれ色々やりましょう」という宣言と啓発をやっていただくのは、非常
に有効だと思う。

○大野委員 イオン北海道全31店舗でチアーズクラブに取り組んでいる。年間テーマに基づいて取り組み、壁新聞を作って発表大会をしている。全国大会では北海道のチームが1、2位を独占している。

札幌のチアーズクラブは8店舗にあり136名いて、コーディネーター46名がその担当をしている。

今年のテーマはエネルギーということで、本社でテキストを作り、店長が講師となって、エネルギーについて学ぼうとしたのだが、活用ができていない。

下期は、エネルギーについて学ぶ講習会をやろうと考えていたので、むしろぜひともお願いしたい。

○小林会長 協議会での人脈を上手に使う、お互いに利用し合う。札幌市の審議会の委員にも有識者がたくさん入っているので、そういう人脈を有効に使う、大いに活用してもらいたい。

町内会活動としてどんな風にやっていけそうか、流通業界・運輸業界では、どんな取組が可能かという点を話してもらった。

これからの方向性がなんとなく見えてきたので、そこから先はどういう風にしたらいいのかということをご提案してもらいたい。

○土江田委員 皆さんすごい取組をやってらっしゃる。私自身は、電気のコンセント、タップを使って節電をやっている。

また、メディアを通じてしか見たことがなかったので、夏に泊原発を見てきた。

○小林会長 環境教育をして、子供も親も、みんなが同じ認識を持って行くことはとても大事である。

○宮本委員 「北海道エネルギーチェンジ100プロジェクト」というのをやっていて、インターネットやSNSを通じて情報を流し、500人ほどが参加している。

皆さんが一番興味を持っているのが「オフグリッド発電」という、送電線につながずに、作った電気を自分で使うというもの。

ベロタクシーに小さなソーラーパネルを設置して、乗った方が携帯を充電できるサービスをしている。

ハイヤー協会やトラック協会、店舗を持っている方などにそのような取組をやってもらえればと考えている。

また、住宅関係の方をお願いしたいのだが、災害時のリスクマネジメントとして、停電時でもファンヒーターが使えるよう小型の自家発電システムを考えていただきたいと思う。

○小林会長 現在は、全てのインフラサービスを 24 時間受けられるという前提で暮らしているが、これらが止まった場合のために、ある程度は各自が自己責任で保っていかなければならない。

○小林会長 町内会活動ですそ野を広げるということに力を注いではどうか、流通業としてお客さんを対象とした取組が可能ではないか、その時に、協議会のメンバーの人脈を活用しよう、ということで、一つの方向性が見えたと思う。

○太田副会長 温暖化という問題は、徐々に暖くなるのではなく、寒暖の両極端化とか、雨の降り方が極端化するとか、台風の数減るけど大きいものが来るようになると言われており、最近それがみんな当たっているので、温暖化しているのだなということを実感している。

環境審議会では、エネルギー対策と温暖化対策をどうするかということ審議するが、環境保全協議会もそれに向かってどうやってサポートしていくのかということをやらなければならぬと思う。

6 その他

(1) 第3回会議の開催予定

第3回会議は、11月中旬の開催を予定していることを確認した。

(2) 第3回会議に向けた準備

第2回会議での議論をさらに深めるとともに、他の取組についても協議するため、新たなアイデアなどについて、検討・調整を進める。

7 閉会